

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2022年第13週 2022年3月28日（月）～ 2022年4月3日（日） 2022年4月7日作成

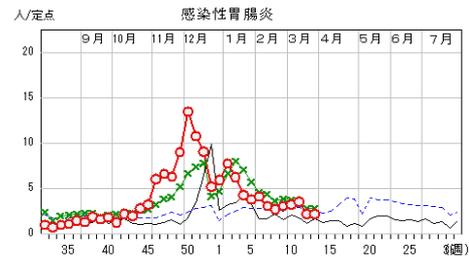
定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）感染性胃腸炎

第13週の報告数は96人で、前週と変わらず、定点当たりの報告数は2.18であった。

年齢別では、2歳（24人）、1歳（17人）、3歳（15人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（5.83）、県北保健所（4.67）、県央保健所（3.33）であった。

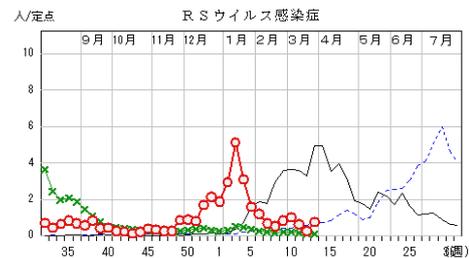


（2）RSウイルス感染症

第13週の報告数は33人で、前週より22人多く、定点当たりの報告数は0.75であった。

年齢別では、1歳（10人）、1歳未満（9人）、2歳（8人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（3.33）、西彼保健所（2.00）であった。

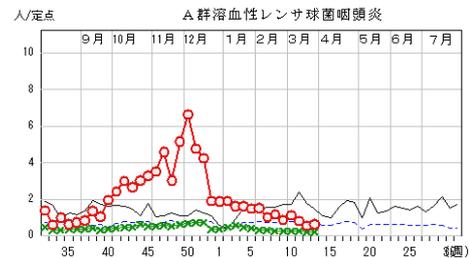


（3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第13週の報告数は27人で、前週より3人多く、定点当たりの報告数は0.61であった。

年齢別では、1歳（4人）、6歳（4人）、9歳（4人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（5.20）であった。



○ 当年(長崎県) 前年(長崎県)
× 当年(全国) 前年(全国)

上位3疾患の概要

【感染性胃腸炎】

第13週の報告数は96人で、前週と変わらず、定点当たりの報告数は2.18でした。地区別にみると佐世保地区（5.83）、県北地区（4.67）、県央地区（3.33）は他の地区より多くなっています。今後も動向に注意しましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。原因微生物のうち、ロタウイルスについてはすでにワクチンが認可されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

【RSウイルス感染症】

第13週の報告数は33人で、前週より22人多く、定点当たりの報告数は0.75でした。地区別にみると、県北地区（3.33）、西彼地区（2.00）は他の地区より多くなっています。今後も動向に注意しましょう。

RSウイルス感染症は、発熱や鼻水が主な症状の呼吸器感染症で、通常は軽症で済みますが、一部は重い咳が出て呼吸困難や肺炎になることもあります。ワクチンはなく、接触感染や飛沫感染で一度かかっても再感染し、大人も感染することがあります。乳幼児、特に6ヶ月未満の乳幼児が本ウイルスに罹患すると、呼吸困難を伴う重篤な細気管支炎や肺炎、脳症を発症することがありますので、心臓などに基礎疾患のある小児では特に注意が必要です。乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第13週の報告数は27人で、前週より3人多く、定点当たりの報告数は0.61でした。地区別にみると県南地区（5.20）は、ほかの地区よりも多く、警報レベルが継続しています。今後も動向に注意しましょう。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

トピックス：4月25日は世界マラリアデーです

4月25日は、世界保健機関（WHO）総会で2007年に決められたマラリア対策推進のための記念日「世界マラリア・デー」です。マラリアは、結核やエイズ（後天性免疫不全症候群）と共に、人類の健康を脅かす世界3大感染症です。

マラリアは寄生虫（原虫）を原因とする蚊媒介感染症であり、原虫を保有した雌のハマダラカに刺咬されることで人に感染します。日本では国内感染例はなく、亜熱帯・熱帯地域からの輸入症例となっています。

「蚊媒介感染症」には、マラリアの他にデング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症、日本脳炎などがあります。特に、日本脳炎は、長崎県でも患者が発生しているため、注意が必要です。蚊媒介感染症の予防には、蚊に刺されないことが重要です。まずは夏に備えて、蚊を増やさないための環境を整えましょう。蚊は水の溜まっているところに卵を産みます。放置されている植木鉢や古タイヤなど撤去しましょう。また、草刈を行い、蚊が潜む場所を減らしましょう。

（参考）長崎県医療政策課 蚊媒介感染症について

<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/kansensho/kansenshou/mosquito/>

